

キャラクター名  プレイヤー名

メインクラス	ウィザード	Lv.1:	メイジ	レベル	11
サポートクラス	ファランクス	Lv.1:	メイジ	性別	男
称号クラス				年齢	23
種族	ヒューリン			境遇	記憶喪失
出自 (効果)	狩人			目標	扶養

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	17	9	9	26	9	18	9
ボーナス	5	3	3	8	3	6	3
クラス修正	1	1	0	3	2	1	0
他修正							
能力値	6	4	3	11	5	7	3

HP	92
MP	118
フェイト	7

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手	ディフェンドメイス	至近	-1	13		3	5	-2	
左手	コロッサルシールド					7		-2	
頭部									
胸部	S1ミスリルスーツ				-3	15	1		0
補助	クラダーリング					11	11		0
装身具	生還の護符					2			
能力値			4	0	3	0	7	8	11
スキル	ファランクスフォート					9	9		
その他									
総計(右)			3	13					
総計(左)			4	0	0	47	33	4	11
総計(両)									m
ダイス数			2 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	5			5	+ 2 d
トラップ解除	4			4	+ 2 d
危険感知	5			5	+ 2 d
エネミー識別	11			11	+ 2 d
アイテム鑑定	11			11	+ 2 d
魔術判定	11			11	+ 2 d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品	
バックパック	ポーションホルダー
ベルトポーチ	ハイHPポーション*5
	MPポーション*12
小道具入れ	毒消し*2
冒険者セット	
アルディオン版トラベルガイド	ランチボックス
	野菜*5
	転送石
エメラルド	耐毒符*2
ダイヤモンド	
	戦利品枠

現在重量:	39	所持金:	31171	預金・借金:	0
最大重量:	46				

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
プロビデンス	★	-	パッシヴ	-	-	-		
効果: 作成時にフェイト+1								
マジシャンズマイト	5	-	パッシヴ	-	自身	自動成功		
効果: 魔法攻撃のダメージに+[SLd]する。								
エアリアルスラッシュ	1	6	メジャー	20m	単体	魔術		
効果: 魔術判定+1d。2d+5の風属性魔法攻撃								
エアリアルセイバー	2		パッシヴ		自身			
効果: 風属性ダメージを与える魔法攻撃のダメージ+[SL*4]								
マジックブラスト	1	3	ムーブ		自身	自動成功		
効果: 魔術対象を範囲 (SL*2) に								
ファランクススタイル: 知力	1		パッシヴ		自身			
効果: 装備制限解除。装備重量を好きな能力値に								
カバーリング	1	2	DR直前	至近	単体	自動成功		
効果: 行動済みにならずカバーを行う。行動済みでも可								
ファランクスフォート	3		パッシヴ		自身		全身装備	
効果: 封鎖されたエンゲージにいる間物防魔防+SL*3								
アイアンカバー	2		カバーリング		自身	自動成功	シールド回	
効果: 物防魔防+防具1つの重量								
ファランクスアタック	1	10	DR直前		自身	自動成功	シールド1回	
効果: 攻撃のダメージ+防具1つの重量								
ファランクススペル	1		パッシヴ		自身		非力減スロ	
効果: 頭・胴・全身の防具重量15以上で有効。魔術判定+SL+1、魔法攻撃ダメージ+1D								
ファランクスクラッシュ	1	3	ムーブ		自身	自動成功		
効果: 頭胴全身重量15以上で使用可能。攻撃のダメージ+スタイルで指定した能力値								
リゼントメント	1		魔法攻撃		自身	自動成功	シールド回	
効果: 魔法ダメージ+CL*10。単体※に								
アーマーアダプト	5		パッシヴ		自身			
効果: 攻撃のダメージ+ [装備している防具の数 (全身は2枠扱い)]								
コンセントレイション	1		パッシヴ		自身			
効果: 魔術判定+1D								

エリオット・ミュール

幼少期に高熱を患い、目を覚ましたのは神殿の簡易ベッドだった。ライン近郊の小さな村に住んでいた彼は、そこの唯一の生き残りだった。妖魔に襲われ、炎を上げて燃え盛る家。次々と倒れていく家族、村の大人、怒号と共に未成熟な魔力を解き放ち、妖魔を焼き尽くした、流しの女魔術師。それら記憶は封じられた。不衛生な環境で負った傷からきた熱のためか、それとも彼の意識が、その光景を記憶することを拒んだのか。

親の顔も思い出せないままに、スラムの小悪党として生きるエリオットの前に、光が灯った。  
「煙草は好き？ 大人しく情報を教えてくれるなら火を貸してあげるわよ」

あの女の名は？ 魔術師なのか？ オレも魔術師になる！！  
風の魔法がいい。あの子の炎は、オレの風を受けて、より強く燃え上がるんだ。へっ、恋みたいでステキだろ？  
彼は、その問題の女と並んで魔術を学び始めた。意図的に避けられる程度には存在を認識されていたようだ。

「いや……パーティを組むにしても、何が悲しくてあんたみたいなヒョロ男を選ばないといけれないの？」  
「そ、そうか……。よし、待っていてくれ、君を守れる強い男になって帰ってくる！！」

彼は裏社会の伝手をたどり、旅へ出た。  
向かうは西の果て、戦乱止まぬアルディオン。そこには、策謀は無欠にして鉄壁を誇る軍師が存在するという。

「ここどこ？ なにに、ドールセント？ グラスウェルズ王国って言うのか。よーし、まずは一番偉い軍師様に会いにいこうぞ！ アンソンのマンソンの変な名前だなあ！」

